

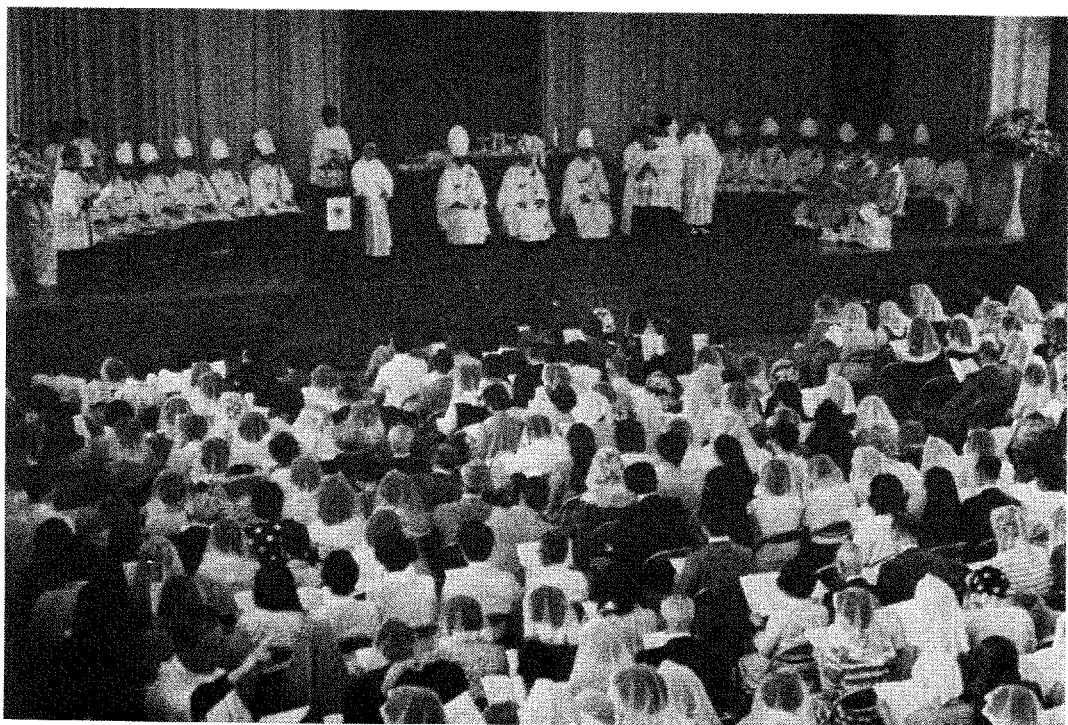
司教任命書の原本（羊皮紙にラテン語で記され、教皇の署名がある）

JOANNES PAULUS EPISCOPUS SERVUS SERVORUM DEI

dilecto filio Francisco Heiichi Sato O.F.M. sobali, electo Episcopo Ecclesiae Niigataensis, salutem et apostolicam Benedictionem. Præsipere cupientes pastoralibus necessitatibus communitatis Niigataensis, quippe quae suo curaret sacerdotum. Iustisrite post renuntiationem Venerabilis Fratris Joannis Shojico Ita. montem ab te conseruimus, dilecte fili, qui sacerdotalis munericis obviundi fidelita te dedisti specimen, quemque pietate, tecum gerentium pietate, prudentia atque doctrina præditum probè novimus. Accepta igitur sententia Congregationis pro Centrum Evangelizatione, apostolica Nostra auctoritate te nominamus et constituiimus **Niigataensem** Episcopum, secundum sacerdotum canonicum præcepta. Ut ordinacionem episcopalem extra urbem Romanam suscipias libenter permittimus, dummodo antea emicetis catholicæ fiduci professionem eoram quoris catholicæ Episcopo argua pronuntiareis ius iurandum fidelitatis erga Nos et Successores Nostros, atque formulas a te adhibitas ab Congregationem pro Centrum Evangelizatione transmittendas eudaveris consueto modo signatas sigilloque munitas. Videbis pariter et facies ut clerici ac populus istius dioecesis Niigataensis convenienter certiores fiant de hac Nostra voluntate deque Nostra nominatione. Quod superest, dilecte fili, te cohortamur in Domino ut gregi tibi concordito auctis viribus totum te dedas eiusque prosperitas tibi semper sit cordi Dei confidus eiusque sanctissimæ Mariæ Mariae. Datum Romæ, apud Sanctum Petrum, die nono mensis Martii, anno Domini millesimo nonagesimo quinto, Pontificatus Nostri septimo.

Joannes Paulus M^{II}

Marielles Rosselli, Robert. Apst.



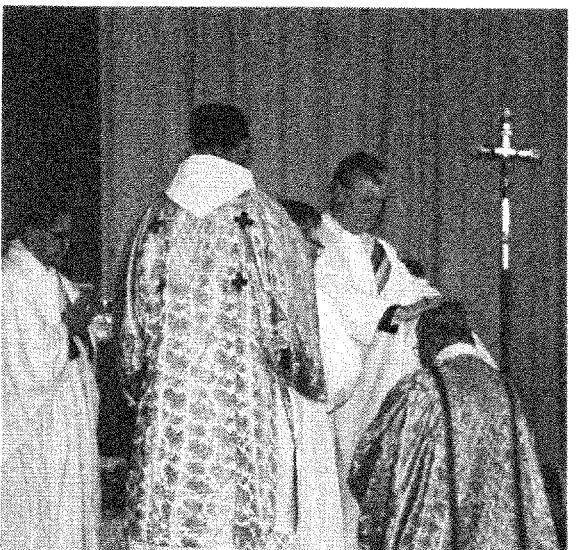
叙階式場全景（新潟清心女子高校講堂）



ミサをささげる佐藤新司教

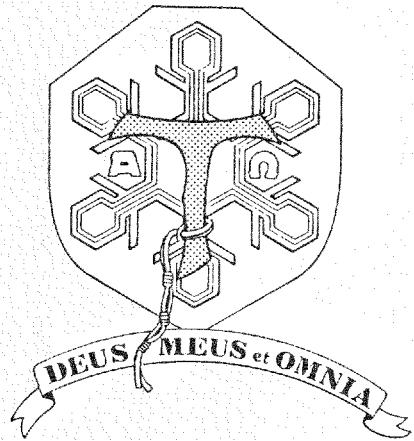


新司教あいさつ（祝賀会）



カルー教皇大使の握手（叙階式）

アシジのフランシスコ 佐藤 敬一 司教



略歴

- 昭和 20 年 3 月 北海道序立旭川中学校卒業
" 20 年 4 月 秋田鉱山専門学校燃料科入学
" 21 年 9 月 同 校 退学
" 22 年 4 月 北海道大学予科工類入学
" 25 年 3 月 同 校 卒業
" 25 年 4 月 北海道大学工学部建築工学科入学
" 28 年 3 月 同 校 卒業
" 28 年 4 月 カトリック・フランシスコ修道会の志願者となる。
" 30 年 4 月 同 会 入会
" 31 年 4 月 フランシスコ会聖アントニオ大神学校入学
" 38 年 3 月 同 校 卒業

" 37 年 10 月 司祭叙階
" 38 年 12 月 札幌北 11 条カトリック教会助任
" 41 年 5 月 同 教 会 主任
" 46 年 11 月 フランシスコ会日本連合副会長
" 49 年 11 月 フランシスコ会日本連合会長
" 52 年 11 月 フランシスコ会日本管区設立とともに初代管区長
" 58 年 11 月 管区長の任期終了
" 59 年 4 月 前橋カトリック教会主任
" 60 年 3 月 カトリック新潟教区教区長に任命
" 60 年 6 月 司教叙階現在に至る。

目

次

叙階の定句（聖別の祈り）

いま、この選ばれた者のに、あなた
からの力、統治の靈を注いでください。

あなたは、この最高の靈を最愛の御子

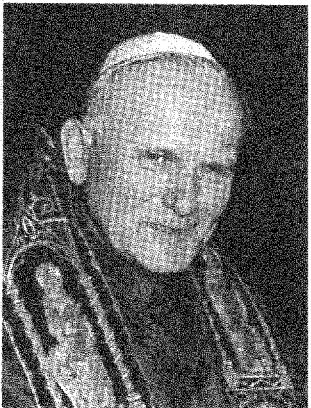
イエズス・キリストにお与えになり、

キリストご自身はそれを使徒たちにお

さずけになりました。使徒たちは、み
名の絶えることのないほまれと榮光の
ために聖なる家として各地に教会を作
りました。

（叙階式次第より）

任命書	ヨハネ・パウロ二世	3	佐藤 司教	4
挨拶	カルー教皇大使	5	伊藤 司教	6
挨拶	鷺尾 神父	7	鷺尾 神父	7
歓迎のことば（叙階式）	伊藤 司教	6	歓迎のことば（祝賀会）	三森 神父
寄稿	8	8	8	7
兄の想い出	シスター佐藤 朋子	10	学生時代の佐藤司教様	浅井正三 神父
若き日の佐藤司教様	11	11	幸運なる兄弟フランシスコ佐藤	青木孝由神父
フランシスコさんが司教に	12	12	わが神よ、わがすべてよ	13
叙階式裏方物語	14	14		15
編集後記	16	16		17
資料	17	17		18
挨拶状、招待状、叙階式出席者数、出席司教名簿、 祝賀会プログラム、記念の御絵、祝電、礼状、 カトリック新聞の記事	18	18		19
	19	19		20



任 命 書

を条件に、私は喜んであなたがローマ市以外のところで司教叙階を受ける許可を与えます。お用いになつた信仰宣言および宣誓文は恒例通り、署名と印章を付し、福音宣教省にご送付ください。

また同様に新潟教区の聖職者と信徒にも私の意図と任命についてお知らせくださるようお願いします。
おわりに親愛なる子よ。神とその母マリアに信頼して、あなたにゆだねられた群のため、全身全靈をつくしその繁栄に心を碎いてください。

神の僕の僕、司教ヨハネ・パウロは、フランシスコ会員愛する兄弟フランシスコ佐藤敬一師に挨拶と使徒的祝福を送ります。

ローマ聖ペトロの座において 私の教皇職七年目

一九八五年三月九日

ヨハネ・パウロ二世

マルチエウルス・ロゼッティ

使徒座秘書官

尊敬する兄弟ヨハネ伊藤庄治郎師の辞任後、新潟教区司教は欠員となつて以来ましたが、司牧上の必要を満すため、愛する兄弟よ、私はあなたに目をとめました。あなたは司祭として立派にその任を果されましたしその敬虔さ、その手腕賢明さ、知識においても優れておられる事を私は知っています。従つて私は聖会法の規定に基づき、福音宣教省の意見を聞いた上、使徒的権威をもつてあなたを新潟司教に任命いたします。

事前に、どなたかカトリック司教の前でカトリックの信仰宣言を行い、私と私の後継者に対する忠誠を宣誓なさること

ごあいさつ

司教 フランシスコ 佐藤 敬一

新潟教区のすべての司祭、修道者、信徒のみなさま、このたび伊藤庄治郎司教様の後を受けて、わたくしが新潟司教を拝命いたしました。司教として担わなければならない重責を思い、自分の浅学、非才、特に信仰の足らなさをふり返るとき、全く身の縮む思いでございます。だからこそ、先ずみなさまのお祈りにすがらなければなりません。

司教職の最大のむずかしさは、イエズス様が、上に立てられる者の追求すべき価値をひっくり返してしまわれたところから来ると思います。イエズス様は、「あなたたちも知っているとおり、異邦人の頭たちはその人民を支配し、偉い人が人民の上に権力をふるつてゐる。あなたたちの間では、そうあってはならない」と前置きし、「あなたたちのうちで偉くなりたい者は、かえつてみんなのしもべとなり、あなたたちのうちで頭になりたい者は、みんなの奴隸となりなさい。それと同じく、人の子が来たのも、仕えられるためではなく、命を与えるためである（マタイ20・25～28）」とおっしゃいま

した。イエズス様が、文句なしに主であり先生であったのはまさに仕える方があつたからです。イエズス様が大司祭であるのは、お言葉のとおり、多くの人のあがないとして、自分の命を与えられたからでした。わたしにとり、イエズス様のこの教えぐらいむずかしいものではなく、イエズス様のあの姿ぐらい遠いものはありません。

「福音は全面的に受け取らなければならない。宣教はまず自分自身の刷新から始めなければならない」。これは近ごろ読んだ、わたしにとって最も痛い言葉でした。イエズス様の教えのうち、好きな点は努力するが、嫌なところは無視する。他人への宣教は心掛けるが、自分の刷新については考えたくないというのであれば、確かにわがままの変形でしかないのです。わたしはずいぶん長い間、前にあげたようなイエズス様のお言葉を、いい加減に聞き流してきました。

わたしは、みなさまがたのお役に立つ司教になりたいのです。ですから、お祈りをお願いします。わたしが少しでもイエズス様に似る者となるように、少しでもイエズス様の教えを生きることができるように。





挨

拶

駐日教皇大使 カル一大司教

伊藤司教様、あなたは新潟教区の最初の司教として「民を照らす光」という司教モットーを選び、第二バチカン公会議の偉大な教義憲章「ルーメン・ゼンチウム」民を照らす光を先取りしました。あなたは二十三年もの間、「教区の果てから果てまで、すべてのものを巧みに司り」、(知恵の書8の1参照)、「主の良い忠実な僕であつたから、主の喜びに入れ」(マタイ25の23参照)といわれるでしょう。イエズス・キリストの土台の上に建てたあなたの働きにふさわしい報酬が与えられますように(コリント3の8～11)。そして、主が末長くあなたに慰めと喜びを与えてください。

佐藤司教さま、「喜びの油をもつて、神はあなたに注油

した。真理と信仰と美德をもつて喜んで前進せよ」(詩篇45の4～7参照)。「あなたは自分自身に気をつけ、また群れのすべてに心を配りなさい。聖靈は、主ご自身の血であがなった神の教会を牧させるために、あなたをその群れの監督者とお定めになったのです。」(使徒行録20の28参照)「福音を宣べ伝え、それを堅く保ちなさい。従順を呼びかけなさい……忍耐をもって」(テモテ2の5～5参照)。「常に祈りの中にあなたを記憶し、あなたのため神に感謝します」(サロニケー2参照)。

新潟教区の司祭、修道者、信徒のみなさん、アンティオケの殉教者聖イグナチオは一世紀の終りに次のように言っています。

「みなさん、イエズス・キリストがおん父にされたように、司教に従いなさい。また使徒たちに対するように司祭たちに従いなさい。司教のおるところに民がいる。それはイエズス・キリストがおられるところにカトリック教会があるのと同じです。司教が承認することは神にも嘉される、そのよう

うにすべてのことは有効であり、正しい」(スマイルナ人への手紙8の1)。「あなたがた自身の間で、あなたがたの司教と、そしてペトロの後継者と一致して、イエズスがおん父と一つであるように、あなたがたみなが一つとなつてください！」

(ヨハネ17の22参照)

(英文から訳す。伊藤司教)



祝賀会においての挨拶

司教　伊藤　庄治郎

昭和三十七年に新潟教区が司教区に昇格して、私がその最初の司教として新潟教会で叙階されたのがつい昨日のように思えますが、もう二十三年になりました。

私はすべての点において司教にふさわしくないものであります。どうやらこうやら司教の重い任務を終えることができましたことは、まず神さまのお恵みによること、次に兄弟である司教様がたが私の手をひいて助けてくださったことであると信じております。教区の司祭、修道女、そして信徒の皆様がお祈りをもつて協力してくださったお蔭であると深く感謝しております。

幸い、アシジのフランシスコ佐藤敬一司教様が、私の後任

者として与えられましたので安心して去ることができます。佐藤新司教様はご承知のように、フランシスコ会の修道者であり修道者が教区の司教に選まれることは大へん珍しいことです。

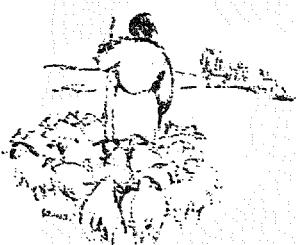
新司教様はフランシスコ会の日本管区創立に関係し、その初代管区長として重責を果されました実績がありますので、司教として、立派にその任務を果されることを信じております。

どうぞ教区の皆様、皆様が私に協力してくださったように新しい司教様に協力し、新潟教区に神の国をひろめてください。

かつて私も札幌のフランシスコ会に入会し大へんお世話になりました。

佐藤司教様も札幌フルダ管区に属しておられましたので、何かの縁であるかと思います。

この機会をかりて札幌のフランシスコ会に感謝の意を表します。



歓迎のことば（叙階式）

司祭団代表 鷲尾正平

佐藤司教様、新潟教区内の司祭の名において、深い喜びをもつてお迎えいたします。ようこそ新潟教区にいらして下さいました。

私達は新司教様の誕生を、まず、神に心から感謝いたしました。

今、この時、司祭は聖ペトロの後継者と結ばれた司教様とともにキリスト様に秘跡的に結ばれていることと、司祭職が最高の神祕であることに思いを新たにしております。

司教職と司祭職について、教皇パウロ六世は使徒的勧告『福音宣教』の中で次のように、ご説明して下さいました。「司教様は使徒の後継者であり、司教叙階によって啓示された真理を教える権威を授かっています。まさに信仰の教師であります。

私達司祭は不肖の身にもかかわらず「牧者のかしら」から司牧者として選ばれ、権威をもつて神のみ言葉を伝え、離散した神の民を集め、秘跡でこの民を養い、一致を保ちながら救いの道を歩ませる任務を負っています」。

司教様は主が私達に託された使命がいかに大切なものであるかをご存じです。ですから、私達は司教様の慈父としてのご指導と、お力添えを心からお願ひ申し上げます。

最後に司教様の上に豊かな神のお恵みがありますよう、司祭一同お祈りいたします。

歓迎のことば

信徒代表

佐藤司教様

司教叙階、おめでとうございます。

今日、ここに司教叙階の聖式に参列致しました私達信徒は、神への感謝と信仰の喜びに胸の高鳴る思いであります。

宣教共同体の育成が叫ばれ、現代社会の福音化への取組みが問われている折しも、その福音宣教の最高指導者として、新しい司教様をお迎えした私達は、今こそ、「キリストのためにみんなで働く」の決意を新たに、新司教に従って、信徒使徒職活動に邁進する所存であります。

佐藤司教様のご指導をお願い申し上げまして、お祝いの言葉と致します。

お祝いのことば（祝賀会）

司祭団代表 三 森 泰 三

佐藤司教さま、今日はおめでとうございます。

私たち新潟教区の司祭たちは、伊藤司教さまが定年辞意を表明されて以来、後任の司教さまを首を長くして待っておりました。教皇ヨハネ・パウロ二世は聖靈に照らされ、私たちの期待に答える善き牧者を与えてくださいました。私たちは聖靈がいつも教会を照らし、導かれておることを信じています。私たち教区民一同は、新しい牧者を与えたことを神に感謝し、司教様を心から喜びお迎えし、尊敬と従順、協力を誓います。私たちの教区が、司教さまを中心に、常に、聖靈によって一つに結ばれてゆくことを祈ってやみません。

司教さま、新潟教区は、細長く、広く、信者数は少く七千人そこそこの教区であります。福音宣教の対象に事欠くことはありません。五百万の教区内未洗者住民は福音の光と救いを渴きあぐんでおります。私たちは、司教さまのその逞しい体軀と、指導性に信頼して励みたいと思います。今や、わが教区は、昨年日本司教団が発表された「基本方針と優先課題」と取り組み、教区信徒使徒職大会の準備中であります。この時に新しい司教様をお迎えし、わが

教区の新たな出発の年となることを期待しております。どうかご健康に留意され、よろしくお導きください。

伊藤司教様、二十三年になんなんとする長い間、新潟司教区初代司教として、お導きくださり深く感謝いたします。教区の基礎を堅実に固めてくださり、ご就任当時とは見違える程の進歩発展を遂げました。これを基盤として、新しい司教様と共に励みたいと思います。司教さまの上に神のますます豊かなお恵みあらんことを祈ります。

教皇大使閣下をはじめ、白柳大司教さま、ご列席の司教さま方、神父さま方、来賓、信者の皆様、本日はようこそおいでくださいました。厚くお礼申し上げます。行き届かないことばかりで深くお詫び申し上げます。どうぞ、今後とも、わが教区を温かく見守りお祈りください。

これを以って、佐藤新司教様に対するお祝いと歓迎のご挨拶に代えさせて頂きます。

お祝いのことば

信徒代表

たいへんせんえつでございますが、新潟教区の信徒を代表してご挨拶を申し上げます。

本日は教皇大使閣下はじめ全国各教区の司教様方、また来賓各位のご臨席をいただき、大勢の聖職者の方々、また信徒の皆様のご列席のもと、佐藤司教様の司教叙階式に与らせていただき、たいへん感激しております。

私共は当地方における神のご計画の実現のため、司教様のご指導のもとに、微力を尽させて頂きたいと考えておりますので、どうぞよろしくお導き下さいますようお願い申し上げます。さき程の司教様のお言葉の中になりましたように、当教区が“神に喜ばれている教区”となることが出来ますならば、まことに幸せと存じます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

また伊藤司教様には長年にわたるご指導、ご苦労、まことに有難うございました。

やさしいお父様のように、懇切にお導き下さいましたことを私共は決して忘れません。どうかこれからも教区長の職をお退きになりましても、益々ご健康で、末長く私共の心の支えとしてお導き下さいますようお願ひ申し上げます。

本日はどうも大変有難うございました。

司教叙階式ミサの祈願



集会祈願

信じる民を治め、導かれる神よ。あなたは司教フランシスコ佐藤敬一を新潟教区の牧者に選ばれました。ことばと行いによって信仰の模範となり、ゆだねられた民とともに、永遠のいのちに入ることができますように。聖靈の交わりの中で、あなたとともに世々に生き、支配しておられる御子、わたしたちの主イエズス・キリストによつて。アーメン。

奉納祈願

聖なる父よ、この供えものをささげて祈ります。あなたの民の牧者に選ばれたわたしフランシスコ佐藤敬一が使徒の熱意で満たされ、宣教する教会の力強い導き手となりますように。わたしたちの主イエズス・キリストによつて。アーメン。

捧領祈願

全能の神よ、この秘跡の力によつて、わたしフランシスコ佐藤敬一を恵みで満たしてください。牧者の使命を、よく果たし、忠実な、しもべに約束された永遠の喜びを受けることができるように。わたしたちの主イエズス・キリストによつて。アーメン。

兄の想い出

ルチア 佐藤朋子 fmm

「お父様おめでとう」、「お父様じや困るな」、笑いながら「お兄様おめでとう」と訂正する。これは兄が司教の任命を受けた時のいたずら好きな姉妹達と私との会話です。又初対面の方はいつも「姪さんですか」とおたずねになります。

兄はぞ覧のとおり年令には早すぎる白髪。十八才年下の私が姪と思われても当然かも知れません。十八才といえば高校三年生。私が物心ついた頃には兄はすでに大学生で田舎を離れておりました。又卒業後はすぐ司祭の道を歩みはじめましたので、私には共に生活した記憶が全くありません。それで「兄の想い出」と題して司祭を志した前後の頃をとの原稿依頼に正直言つて困ってしまいましたが、少ないしかも断片的な記憶をしぶり出してみることにします。

旭川市から約三十キロほど奥の北海道の屋根と言われる大雪山のあるすっぽり雪に埋もれた村の一夜のことです。おそらく冬休みで久し振りに帰宅したのでしょうか。兄を迎えて狭い我家はいっぱいになりました。両親と七

人の兄弟姉妹がストーブを囲んだのですが、九人がぐるっと坐るにはストーブが小さすぎたのでしょうか。兄は末っ子の私を膝に抱いて坐り、時々ストーブの口を開いて薪を入れていました。そこで何が話され、何が起ったのかは全く記憶がありません。ただ膝の上に抱かれていても何だか落ち着かないちょっと恥しいような妙な気持ちであつたことを覚えているだけです。兄は確かにうちの人であつて他人とは思っていないのですが、久し振りの、私にとつては初対面の兄にまだ馴れていなかつたのです。

これも同じ冬のことでしょうか。私が雪の中を夢中で遊んでいると家の前の狭い道路に馬が留まり、山ほどの木を積んだそりから人がひらりと飛び降りました。それが兄だったのです。私は頬もしくながめていました。切り倒された木を集めに近くの山に馬を引いて行つたのですが、母はいつか「あんなに小さな枝まで切りそろえて、きれいに束ねて持つて来てくれるとは思わなかった。あの時はほんとうに助かったわ」と懐しそうに話していました。中学（もちろん旧制）時代のあだ名はチョコ。生徒達がわいわい騒いでいる時にはいつもそこに兄がいたと言われる反面、よく一人で山へスキーに行つたり、川へ泳ぎに行つたことがあります。馬には触れたこともなかつたのに、そりを引かせて一人で木を積み出しに行くなど、兄には勇敢なところがあつたようです。

これはずっと先の私が修道生活を始めてからのことです。ある時私の修練長は、兄が私を心配して「あの馬鹿どうして

いますか、塩水にでも浸してやつて下さい」と言っていたと転げ回らんばかりに笑っていたのを思い出します。大きな体に似合わず大変照れ屋で、私について話す時はいつもこのような表現を使っていたようです。又私の靈名の祝日に何度もカードをくれましたが、年に一度ならもう少し字数多く書いてくれたらと思うのですが、全く筆不精な我家の長兄らしく

“お祝い日おめでとう”ただそれだけです。ある時は電話で「お祝い日おめでとう、うん、それだけだ」です。でも兄の思いやりが、忘れず祈ってくれていることがその中に感じられます。私はとても嬉しかったのです。

(マリアの宣教者フランシスコ会修道女・司教様の妹)

学生時代の佐藤敬一司教様

佐藤敬一司教様と私が最初にお会いしたのは、司教様が北

海道大学の予科（旧制高等学校）二年の頃であったと記憶しています。

当時は、北大カトリック研究会を中心にして、札幌市内の大学ばかりでなく、北海道各地の大学のカトリック研究会が連帯し、北海道カトリック学生連盟を結成していました。

大学生の指導のもとに、カトリック高校生も活発に動いていました。北海道カトリック学生運動の、いわば第一期黄金時代です。

秋田鉱専から、昭和二十二年北大に転じた司教様は、札幌の北十一條教会に出入しておられました。北十一條教会は、フランシスコ会に委託された教会で、北大や、「藤」、「天使」などカトリック系の短大が近くにある理由もあって、学生が沢山集っていました。その中でリーダー格であったのが、北大医学部在学中の、A・M・K・T の両君で、主任司祭は、私の従兄、浅井晴雄神父でした。

そのような雰囲気の中で、司教様は、お父様の影響もあって、教理を学び、北大一年の時に受洗されました。洗礼を受けられた時、司教様はフランシスコ会の司祭になる希望を抱いておられたそうです。

その後、北大カトリック研究会に顔を出されるようになります。

北大予科時代の司教様の同級生には、幼児洗礼をうけた、

筋金入りのカトリック信者が二人いました。一人は、現在東北大学の教授になっている白石 裕氏で、もう一人は、東京で或る会社の社長をしておられる N 氏です。そのほかに、北大予科学生の代議会の議長、S・T 氏がありました。彼が後に受洗するに到った経過には、司教様、白石氏、西氏などの働きかけがモノをいっていたのです。

一期うえには、函館湯川教会の橋本 力神父、一年下で新制大学の一期生には、東京の蒲田教会の吉田善吾神父など、札幌学連からは、数多くの司祭、修道女が輩出しています。敗戦後間もない時代でしたので、社会全体が、肉体的にも精神的にも飢えていました。

肉体的飢えと言えば、S・T 君がやっと手に入れた、腐敗しかけた鱈を料理して友達に食べさせた事件があります。全員が食中毒で寝込んでしまったのに、司教様だけは、どこ吹く風で、翌日の授業に出席したうえ、スポーツまでやっておけたのです。消化剤まで栄養にしてしまうほど、胃腸が丈夫だったのでしょう。

現在の体重からは想像し難いでしょうが、司教様は学生時代足が早く、ラグビー部に籍をおいていました。浅井晴雄神

父に「将来司祭になるつもりなら、怪我をしないうちにラグビーはやめる」と忠告されて退部したそうです。その忠告がなかつたら、足の不自由な新潟司教が実現していたかも知れません。

社会が精神的にも飢えていましたから、一般市民を相手に北大中央講堂や市民会館を会場にして、講演会や公開講座を度々開催しました。そういう際のビラ貼り、会場整備、看板運びなどには、他の学生と一緒に、司教様も率先して活躍されました。

その後、学連の全国大会参加の旅行の際のエピソードなど想い出はつきません。

あのヤンチャな学生達も、司教様が、フランシスコ会に入会し、司祭になるという道を選ばれた時は、「彼ならば……」と、皆が認めていたのは事実です。

勝れた体力と精神力に恵まれ、福音への愛に燃えておられる佐藤敬一師を、この度司教として迎えられた新潟教区の

そうの発展と、主の祝福を祈ってやみません。
(札幌教区司祭 一九八五・七・二一 記)

若き日の佐藤司教様

佐藤司教様の叙階式に参加できました事はこの上ない喜び

であり、光栄の極みでした。そして学生時代の神父様の姿をしみじみと忍びながら、この司教様のために私達こそ祈り日々を捧げなければならないと存じていて今日この頃です。

私たちが全国にカトリック学連を結成し、北海道にもと初めての会合を藤短大で開いた時に結成式も終えて余興に入りました時に、K・T のシユーベルトのアベマリアに統いて北大予科生がぞろぞろとあまりきれいではないなりをして出てきてコーラスをやるというのです。S 君・H 君・N 達の中に、テカテカの学生服の金ボタンがはち切れそうな司教様も一人半位の場所をしめていました。連中が口をひらいで並みいる人々が驚いたのは、なりに似合わずすばらしいメロディーが流れ始めたからです。一人一人が心の清らな青春でしたし、本当に彼らはよき友であることを証しする様な、心が一つに通い合い、祈り合う、きくものも心洗われる合唱でした。そのテクニックもかなり高度なものでした。きくと北大合唱団として励んでいたのです。以来司教

様の恰幅のよさが又すばらしく見えたのですから不思議なものです。

皆様には想像もできないでしょうが、私たちの学生時代は食べものも碌にあたらない時代でしたのに、入学以来たゆまず肥りづけられた司教様は私たちの七不思議の不思議だと語りつたえられていますが、働かないからではないかというとイヤイヤ決してそうではありません。

司教様と御一緒にカトリック学生連盟や教会で働く様になり、又小神学校で日夜生活を共にした私が思うのですが、活発な意見交換の後で、やるとなつたら本当に気軽に精力的に喜々として働き続けられる方です。ベビーホーム建設資金募集のために、映写会を、又種々の講演会のために、公教要理にと、日夜働き乍ら友をふやしつづけられました。いや友といいうよりは兄弟姉妹をふやしつづけられたというのが本当でしょう。司教様を悪くいう人はきいたことがありませんでした。

どんな難問にも即興の詩歌を高らかに吟じて周囲をなごやかに明るくするし、全てを深く洞察しながらじっくりと物事を推進する実行力をもっています。並の人なら自慢話ををするのですが、司教様は失敗話が得意です。いかなることにも感謝を忘れず、大きな信頼と希望をもって生き続けられる方です。司教様は私達と同じものを食べても以上の様な人格の持

ち主ですので、大きな感謝と喜びにみちてたべるのですから

人一倍身になるのです。これが日々肥り続けられる原因だと分りました。でもどこにいっても「腹へった、何か恵んで下さい」と歌い乍ら戸を開けるので、何かかにか我々よりも多く口に運んでおられたのも確かです。今でも司教様の肥りすぎを心配しながらも、何か食べさせて上げたい気持になるから不思議です。

司教様は靈名の聖人フランシスコから特別の御寵愛をうけておられる様です。今日迄司教様は本当に御多忙の中、寸暇をさいて辺境の地帯広の拙宅まで屢々お越し載いていましたが、その都度靈性の深まりを感じます。主イエズスを生きるために、師父聖フランシスコが生きられた様にそのままに生き続けられようと努力しておられる司教様が今度新潟の地区を司牧される様に大変な責務を負わされました。同じく青年時代からよく存じ上げている私の妻は「何んかどんどんと十字架が重くなつていかれる司教様が可愛想」と申しています。

日本人は信者・未信者を問わず聖フランシスコが好きです。でもこれが主キリストに今一步届かないのですが、今生きたフランススコがこの大きなかつとめを果して載きたい。そのために教区の皆様が司教様を心から愛し、祈つていただきたく存じ乍ら筆をおきます。

(帯広東四条教会信徒)

幸運なる兄弟 フランシスコ 佐藤

修練院における兄弟フランシスコ佐藤は何時も幸運なる兄弟であった。私たち七名の神学生は、夢にまで見たあのフランシスコ会の修道服をいただくために、勇んで修練院にやつてきた。修練院は毎朝、默想、聖務日課、ミサそして朝食前に修道院内を掃除し、一日が始まるのである。

司祭休憩室の掃除の時であった。そこは世俗の精神にどっぷりつかつてきた修練者にとって、懐かしい世俗の匂いのする「誘惑の園」なのである。タバコの吸殻、新聞がそれである。修練長の仕事は、この世俗の匂いを洗い清め、聖なる修道者を創り出すことにある。だからこそ修練長は、誘惑に打ち勝つ力を養うために修練者をこの「誘惑の園」に送り込んだに違いないのである。しかし修練院に来て間もない修練者にとって、この誘惑との戦いは苛酷なものであった。必ず犠牲者が出る筈である。

沈黙のうちに掃除が始められた。一人の修練者が机に近づ

いた。兄弟フランシスコである。机の上の新聞をかたづけるため彼は新聞を手にした。しかし、その新聞を所定の場所に持つてはいかず、長い机の端から端まで何度も移動しているではないか。私は心の中で何度も叫んだ、「いけない兄弟フ

ランシスコよ、誘惑に負けてはいけない、可哀想なフランシスコよ、今日の犠牲者は、あなたなのか」。私は祈った、「修

練長様が入って来ませんように」と。その時、兄弟フランシスコは満足そうな顔をして、やっと新聞から離れたのであるが、何故か新聞は机の上に置かれたままである。兄弟フランシスコの目は、私に何かを語っている。私の好奇心はすでに燃え上っていた。兄弟フランシスコは何を見たのか。司祭になるものは、社会の出来事に無関心であつてはならない。い

つの間にか私は机のそばに立ち、新聞は私の手の中にあった。丁度その時ドアが開き、誰かがそこに立っている気配を私は感じた。「しまった」と私は心のなかで叫んだが、時は既に遅かった。そこには修練長様が立つておられた。その目は、誘惑に負けたあわれな「今日の犠牲者」に向かっていた。修練長様は静かに口を開かれた、「兄弟アントニオ、今日クルパをしてください」（クルパとは、食事の時、すべての修道者の前で、修道服の帽子をかぶり、床にセッパンして自分の犯したあやまちを告白し、命じられた祈りを、両腕を高く上げて、その場で果すことである）。私は只「ハイ」と答えて兄弟

フランシスコの顔を見た。かれの顔は平和に満ちていた。かくして一年後、兄弟フランシスコは一度もクルパをせず、優秀な成績で修練を終え、私は四度もクルパをしてやつとの思いで、修練を終えたのである。

（フランシスコ会司祭旭川五条教会主任）

フランシスコさんが司教に —— 叙階式に参列して ——

「フランシスコさんが新潟司教に叙階される」と聞いたとき、わたしは「なるべく人が選ばれた」の感を深くし、感謝と賛美の祈りをささげ、ただちにお祝いの電話をした。

そのとき、どうしたことか、フランシスコさんが一九六二年十月七日に、瀬田の聖アントニオ神学院で、富沢司教さまによって司祭に叙階された日のことを思い出した。フランシスコさんが北大建築科を出て神学院に入学して以来のことだから、もう三十年も以前のことである。

わたしは早速、在世フランシスコ会の全国地区兄弟会に、フランシスコさんのために靈的花束を贈つてもらうように伝

え、私自身は拙い筆をとり、「主を待ち望むものは新らたな
力を得ん。鷺のごとく翼を張りてのぼらん。走れども疲れ
ず、歩めども倦まざるべし」（イザヤ40・31）と一気に書き、
掛軸にして贈ることにした。

そのフランスコさんを、これから「佐藤司教さま」と呼
ばねばならないのかと思うと、戸迷いすら感じた。私にとつ
てはいつまでも「フランスコさん」でいてもらいたいとい
うのが偽らぬ心境である。

想えば、アコードィオンを抱えて「轟くつつ音」を歌って
いた姿、蛇をつかんでポイと投げた姿、ビールをなみなみと
ついだグラスを腹の上にのせ、ニヤニヤしていた雅気、スピ
ツツ犬と戯れた姿、野球放送を聞いて「〇〇、負ける」と怒
鳴った声、雪の日に車のキーを落して聖アントニオに祈つた
と語った姿などがそれへと思い出される。

そのフランスコさんが司教になると聞けば、複雑な気に
ならないのがむしろおかしいのである。

叙階式の日には前列の席に案内を受け「わが神、わがすべ
てよ」と書かれた叙階記念のカードを目にしたとき、クイン
タヴァーレのベルナルドの家で、終夜「わが神、わが神」と祈
つた聖フランシスコの姿と、フランスコさんの姿が重なり
合つて、わたしは涙にぬれた。

やがて式が始まり、多くの司教と司祭が入堂したときには

一言も発することができず、私は深かぶかと頭をさげた。わ
けでも、ご母堂さまが、今は司教となつたわが子からご聖体
を授つたときは、ことわり知らぬ涙がとめどもなく、はぶり
落ちて、どうにもしようがなかつた。長男を神にお捧げした
ご母堂の心中、いかばかりか、喜びと贊美に満たされたこと
であろう。フランスコさんの胸も熱いもので一林になつた
であろうことは、察するに余りあるものがあつた。

書きたいことは山々あるが、終りに新潟教区の方々にお願
いしたい。佐藤司教はみなさまの祈りと力と愛を頼みとされ
ているはずです。フランスコ会日本管区長時代に「自分の
ベッドに寝ることがない」と困ったような、嬉しいような顔
をしていたフランスコさんを、十二分にお使いになり、か
つ心からお仕えして、み国のためにお尽しくださいますよう
に、お願ひいたします。神に感謝！

（フランスコ会聖書研究所
東京・徳田教会信徒）

わが神よ わがすべてよ

ユリアナ

佐藤司教様の叙階式でいただいたど絵の裏に、『わが神よ、わがすべてよ』という、アシジの聖フランシスコのことばがあつた。このことばは、その後の教区報によると、司教様の目標そのものといわれている。

洗礼以来三十年余をのうのうとしてきた私にとってその言葉は、とても強い刺激となつた。それが短い句であっても、人間にとて、生き方を変える大きな原動力となることは如何に巧妙な文章でも、たつた一言にかなわないこともあるといふ例が多くあることでもわかる。聖アウグスティヌスの回心のもとになつたといわれる聖パウロのローマ人への手紙の内容が良くこれをあらわしている。

「……眠りからさめるべき時がすでにきてる……夜はふけ、日が近づいてる。それだからわたしたちは、やみのわざを捨てて、光のよろいをつけようではないか。……あなたがたは、主イエス・キリストを着なさい……」（ローマ人への手紙十三章）。

「日蓮」の著者増谷氏は、この書簡がルターに、内村鑑三に、自己変革の決定的なものとなつたとさえ言つてゐる。

十年前、まだパウロ六世教皇の在位時代、二十五年毎に行われる聖年の儀式に参加したことがあつた。ローマに到着したのが十二月三十日だったが、翌日、アシジへ一日巡礼をした。何の変哲もない農村の真中に、金色に輝く屋根を持つ大聖堂、そしてその横に堂々とした聖フランシスコ聖堂、そして少し離れて、美しいバラ色の聖クララ聖堂がつましやかに建っていた。冬の限りなき深い青空と美しいシルエットの糸杉の列が印象的であった。訪れている人が多いのにかかわらず、静かさと平和に満ちていたのはふしきであった。冬なのに底抜けに明るい風景、そしておだやかな空氣はそのまま聖フランシスコの風姿でもあつた。神に向つて、ひたすら歩む姿には少しの気負いもない、聖人の姿は、『わが神よ、わがすべてよ』であつた。

佐藤司教様が修道者にふさわしく、トランク一つで着任されたと聞いている。物であふれている時代の世に、何が一番大切かを私たちに教えてくださることと信じてゐる。偶然といふか、主任の鎌田神父様も同じご靈名なので、これからわが教会は、祈りと労働が大きなエネルギーとなつて、しっかりと大地をふまたたような力強いものに育つていくことと思う。

（新潟教会信徒）

叙階式裏方物語

力には驚ろきましたね。

あした天気になーれ

前日の夕方から降り出した雨が激しかったから、叙階式当日の天気のことが心配でしたね。

なにしろ一、三〇〇名近い人達がお集りくださるわけだから、あした天気になーれと、祈る気持でした。

叙階式の朝、目が覚めたらさわやかな晴天で、うれしかった。

重量オーバーじゃないの 二〇〇脚の椅子を式場へ運ぶ作業も大変でしたね。トラックにやっと積み込んだけれども重量オーバーになるのではないかと一喜一憂だったですね。新潟教会から式場まで数キロを山頭神父様が安全運転でゆっくりと運搬。

式場設営に信徒結集

寺尾教会・青山教会信徒が中心になつて造りあげた壮大な式場。並べた椅子は約一、〇〇〇脚以上。

それでも設営準備に統ぞくと集つてくる両教会の動員

簡易トイレの話 尾籠な話でごめんなさい。一、〇〇〇人

で所要時間五時間。統計上、簡易トイレが九個必要なんだつて。どんなふうにして出した数字なんでしょうね。

やつとのことで集めた数は八個。ご使用のご感想は。

仮設公衆電話二機

電話機の一時仮設には苦労しましたね。やつと二機取付けることができて、くる電話はこれ、かける電話はこれと決めたんだけれど、いざ本番になると頭がこんがらがって送信専用電話をとつてモシモシ モシモシ。なれるまで大変でしたね。

ようこそ叙階式へ

花園教会が新潟駅に近いということで花園教会の信徒さんが駅などでの出迎えとバス停までの案内をお世話。「カトリック教会」と染め抜いた旗を掲げて「ようこそ叙階式へ」とご挨拶をいたしましたが。

会場受付は新潟教会・鳥屋野教会の婦人信徒がお世話をしました。

皆様ご苦労さまでした。

大献金箱

某神父様ご設計の大献金箱が二個。あふれるほどの献金があつたとか、なかつたとか。

救護班奮戦記

病人がでなかつたことは幸い。でも皆無ではなかつたのです。晴天のもと緑蔭救護所に疑似性感涙症患者一名。

折角の叙階式のごミサでしたのに、本間先生をはじめカトリック看護婦会の方々、本当にご苦労さまでした。

ボーイ・スカウト大活躍 ボーイ・スカウト新潟第四団の活躍はありがたかったです。

服部隊長をはじめ、東京勤務の安達副隊長もかけつけてその指揮のもと駐車場の管理に要所要所で、トランシーバーを、紅白の旗を振る、ボーイ・スカウトの英姿。

教区神学生の方々ご苦労さま 神学生の方々も大変でしたね。叙階式参列、待者がお役目だったのに、裏方の応援、はては大量ゴミの仕事まで。ご苦労さまでした。

最後に祝賀会のこと テーブルにお料理がならべてあります。が、ご挨拶が続いておりましてはいたまきにくいですね。ながーい、おあづけ。でも帰りを急がれる方や子供達は召しあがつてくださいました。喜んでおります。お世話は亀田教会の皆さんでした。

(新潟教会信徒会長)

編 集 後 記

佐藤新司教様の任命から、清心高校で行われた司教叙階式まで、教区全体が湧き上るような喜びと期待に包まれたと思う。叙階式の具体的準備のため、お金のことから始って、当日の式典と祝賀パーティ、最後のご礼状に至るまでの協力態勢を見ると、みんな生き生きと労をいとわずに参加し、叙階式は司教様ひとりのためではなく、教区全体にとって、まさしく「恩寵のとき」であったとの感を深くした。

その「恩寵のとき」を記念し、あの海鳴りのような感動を分かち合うために、この小冊子を編集することにした。つたないものであるが目を通して、喜びを新たにしていただければ幸いである。

御寄稿いただいたシスター佐藤、神父様方、司教様の友人の皆様に特に御礼を申し上げたい。そして叙階式に遠くから御列席下さった多くの方々が、佐藤新司教様のいらっしゃるこの新潟の地を、再び訪れてくださることを願いながら筆をおく。

()

資 料 1 挨拶状

ご

挨拶

陽春の候 皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます
 このたび ローマ教皇ヨハネ・パウロ二世により
 伊藤庄治郎司教の後任として カトリック新潟教区の教区長（司教）に
 任命され 来る六月九日（日）聖体の祭日に 白柳東京大司教の司式に
 より司教祝聖式が行われることになりました
 使徒の後継者として 神の民の牧者との重責と現代世界への福音宣教の
 使命を深く心に感じております 微力ではありますが 神のいつくしみ
 と皆様の力強い靈的御支援に信頼して この聖務を遂行して参る覚悟で
 あります
 なにとぞ 私と新潟教区の上に 聖靈の豊かな注ぎをお祈り下さいま
 すようお願い申し上げ ご挨拶といたします

昭和六十年四月

カトリック新潟司教区
 被選司教
 アシジのフランシスコ
 佐藤 敬一

春暖の候 皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます

さてこのたび ヨハネ・パウロ二世教皇は 三月二十五日付で私の停
 年退職を認められ カトリック新潟教区長の任を退くことになりました
 在任中皆様の暖かいお力添えをいただき 神の民の牧者としての職務
 に励むことが出来たことを感謝し 厚く御礼申し上げます
 後任にはアシジのフランシスコ佐藤教一師が任命されましたので
 新潟教区の発展のため 私同様ご厚誼を賜わりたく御願い申し上げます
 神のいくしみと長年にわたる皆様のご協力に感謝しながら ご挨拶
 いたします

昭和六十年四月

司教 使徒ヨハネ

伊藤 庄治郎

2 招待状

ご

招待

このたび 左記により司教祝聖式とさやかな祝賀会を行いますので
 ご臨席賜りますようご案内申し上げます
 昭和六十年四月

カトリック新潟司教区
 司教祝聖式実行委員会

と き 昭和六十年六月九日（日）聖体の祭日

ところ 司教祝聖式（午後一時～三時）於新潟清心女子高校講堂

祝賀会（午後三時半～五時）於同校第二体育館

様

1 共同司式をお望みの神父様方は祭服一式（ストラ白）をご持参の上
 本校舍教室にご参集下さい
 2 お手数ながらご都合の程を五月十五日まで同封ハガキをもつて
 お知らせ下さい

3 司教叙階式出席者数

出席者	叙階式	祝賀会	共同司式	備考
司教特別來賓（親族）	20 21	20 21	20	
司祭	91 16	88 16	91	
一般來賓	488 113 205 176	456 109 124 176		
新潟地区				
新発田地区				
長岡地区				
山形・秋田地区				
教区外	80	80		
計	1,210	1,090	111	

4 出席司教名簿

新潟	那覇	鹿児島	大分	長崎	福岡	高松	大阪	京都	横浜	東京	名古屋	横浜	東京	仙台	浦和	和歌	大島	佐力
教	教	教	区	区	区	区	区	区	教	区	教	区	教	区	教	区	教	区
一 被 選 司 教	一 教 教	一 教 教	一 区	一 区	一 区	一 区	一 区	一 区	一 教	一 区								

5 司教叙階式祝賀会プログラム

とき 1985年6月9日(日)
P.M 3:30 ~ 5:00
ところ 清心女子高校第二体育館

1. 司教入場
2. 開会挨拶
3. カルーア教皇大使
佐藤新司教
伊藤司教
ハインリッヒ神父(フランシスコ会日本管区長代理)
4. お祝いのことば
三森神父(司祭団代表)
(信徒代表)
5. 花束贈呈
カルーア教皇大使
白柳大司教
佐藤新司教
伊藤司教
6. 祝辞
7. 祝電披露
8. 祝乾杯
9. 祝合宴
10. 唱「アーメン・ハレルヤ」(全員)
11. 閉会のことば
12. 司教退場

以上

6 祝 電

(1) 長崎大司教里脇浅次郎枢機卿

司教祝聖を心よりお祝い申し上げますと共に、新たな聖務の日々が大司祭キリスト様の恵みと祝福によつて満たされますように。

(2) 広島教区三木司教

祝聖式を心から祝い、お喜び申し上げますと共に、司教様と貴教区の上に神の豊かな祝福をお祈り申し上げます。

(3) フランシスコ会総長

イタリア・アンジからフランシスコ会総長ヨハネ・ヴァンと総会に集つてゐる管区長たち、とりわけ、ピオ本田日本管区長は心を一つにして、佐藤敬一神父に新潟教区司教に選ばれたことを祝し、今後の使徒的、ご活躍のために祈ることを確約されました。

総会秘書 エドモント・ドウガン

4 フランシスコ会フルダ管区長

ドイツ・フルダ管区の一回は、神父様が新潟教区の司教に選ばれたことを喜び祝い、ミサ中、特に祈りします。平和と幸あらんことを。

管区長 シルヴェステル・ナイヘル神父

(5) 新潟県知事

司教祝聖式を心からお祝い申し上げますと共に、皆様の益々のご健勝をお祈りいたします。

(6) 外五十一通

7 記念の絵

わが神よ わがすべてよ

(アシジの聖フランシスコ)

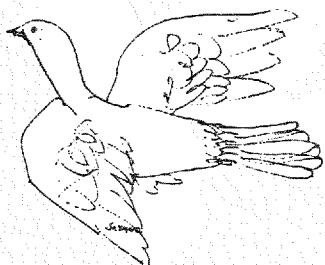
司 教 叙 階 記 念



一九八五年六月九日(於新潟)

アシジのフランシスコ 佐 藤 敬 一

8 礼



主の平和
緑のさわやかな季節となりましたが、皆様にはお健やかにお過しのこととお慶び申し上げます。
このたび私の司教叙階に当たりましてははるばる新潟の地までお越しください式典に参列して祈りを共にしていただき、さらにご祝儀や祝電等を賜わり厚く御礼申し上げます。
御陰様にて、当日は天候にも恵まれ、すべてとどこおりなく終了することができました。これはひとえに皆様の暖かなご協力の賜物と深く感謝しております。
福音宣教と神の民の牧者としての長い遙かな旅が始まります。主のいづくしみに信頼して歩んで参りたいと存じますので、今後とも一層のお祈りとご指導を賜りますよう御願い申し上げ、御礼のご挨拶といたします。

昭和六十年六月

新潟司教アシジのフランスコ佐藤敬一

9 カトリック新聞の記事（昭和六十年六月二十三日付）

新潟司教誕生

講堂を埋め尽くす千五百人 喜びに沸く新潟教区

新潟教区長、佐藤敬一被選司教（五七）リフランシスコ会の司教叙階式は、六月九日、新潟市五十嵐一の町の新潟清心女子高校講堂で盛大かつ莊厳に行われた。駐日教皇大使ウイリアム・A・カルー大司教、白柳誠一東京大司教はじめ、日本の全教区から計二十人の司教（札幌と広島は総代理）が叙階式を執り行い、講堂を埋め尽くした千五百人の教区民が祈りを共にした。同教区・初代教区長ヨゼフ・ライネルス神父から数えて六代目、司教としては伊藤庄治郎司教（七六）に次いで二代目の新司教誕生に会場の同高校は終日喜びに沸いていた。

新司教誕生……感激の大合唱

前夜来の雨も上がり当たる日、会場の清心女子高校講堂には教区内三県（新潟、秋田、山形）はもとより北海道、群馬、兵庫などからも熱心な信徒が参列、総勢千五百人が立すいの余地もなく講堂を埋め尽くした。

午後一時、「いのちあるすべてのものは」の聖歌が静かに流れる中、十字架を先頭に百人の司教団、白いミトラ（司教帽）に金色の牧杖を手にした司教団が佐藤被選司教に先立つて肅々と入堂、司教叙階式は壯麗に幕を開けた。

みことばの祭儀に続いて仙台教区長の佐藤千敬司教が説教に立ち、教区民を二十三年間にわたって守り導いてきた伊藤庄治郎司教に対して、日本カトリック司教團を代表して心からの感謝を述べ、「教区民が司教を愛するなら、我々は聖体のもと、完全に一つになるである」と語り、キリストの聖体の祝日に新しい司教が与えられたことを神に感謝した。

ローマからの任命書の朗読に続く決意確認では、千五百人の会衆が肅然と見守る中、主式司教の白柳誠一東京大司教と佐藤敬一被選司教との間で次のような問答が行われた（敬称略）。

白柳 佐藤神父様、使徒たちから私たちに託され、また私たちの接手によってあなたに授けられる任務を聖靈のたすけのもと、生涯果たしぬく決意を持っておられますか。

佐藤 はい、持っています。

白柳 あなたはキリストの福音を絶え間なく忠実にのべ伝えますか。

佐藤 はい、のべ伝えます。（中略）

白柳 使徒聖ペトロの後継者に忠実に従いますか。

佐藤 従います。（中略）

白柳 神の民のために絶えず祈り、司教の努めを忠実に果たしますか。

佐藤 はい、神の助けによつて、そのように努めます。

白柳 あなたのうちによいわざを始められた神が、それを完成してくださいますように。

「神の母聖マリア」で始まる諸聖人の連願が朗々と歌い上げられた後、祭壇中央にひさまずいた佐藤被選司教の頭に二十人の列席司教

が次々と握手を行い、白柳大司教による聖香油塗油、司教職を表わす福音書とミトラ、指輪に牧杖が受階者に授与され、「行け、地の果てまで」の大合唱が講堂をどよもす中、ここに第六代新潟教区長・佐藤敬一新司教が誕生した。

ミサ終了後、ま新しいミトラと牧杖に身を固めた佐藤新司教は、温顔をほころばせながら祭壇中央に進み出て、着座初のあいさつを教区民に行い、盛大な拍手が会場をおおう中、司教叙階式を終了した。

また午後三時半からは、会場を第二体育馆に移して喜びの祝賀会が開催された。

「伊藤司教さま、有難ウゴザイマシタ。オ休ミナサイ。佐藤司教ママ、オメデトウゴザイマス。ガンバッテ下サイ」とのユーモアあふれるカルー教皇厅大使のあいさつに信徒たちから盛んな拍手が送られていた。

キリストに倣い、信徒に奉仕したい

佐藤新司教あいさつ

私の司教叙階式に司教団はじめ、多くの司祭、信徒の皆さんに祈りを共にしていただき、心から感謝している。

福音のむすかしさは、人間の価値観と全く反対のところにあるのではないかと思っている。「偉くなりたいものは下にならなければならぬ」（マタイ20・26）。司教らしい司教とは、キリストに倣うことだと自らに言いきかせ、皆さんのために少しでも役に立つ司教となるよう頑張りたい。皆さんの祈りで支えてください。